



庄原の秋をとことん満喫

10月16日に各地域で秋まつりが開催

REPORT 1

「ひびけ この声、心意気!!」をテーマに第19回比和やまびご祭が比和総合運動公園で開催され、市内外から約5,000人が来場しました。

陰陽の文化交流として、山陰から出雲神楽、山陽から下蒲刈獅子舞が演舞を披露。広島県警察音楽隊による演奏、桜井くみ子、上杉千恵美の歌謡ショーで大いに盛り上がりました。

また、比和中学校の生徒が広島県指定無形民俗文化財「比和牛供養田植」を披露し、会場から大きな拍手が送られました。

参加者は、同時開催の「からだいきいき健康まつり」で、骨密度や筋肉量、血圧などを測定し、健康をチェック。地元の特産市場や市民グループ、自治振興区などが販売する新鮮な農産物や比婆牛のもも丸焼きなどを買い求めていました。



▲ロードレース



▲比和中生徒による比和牛供養田植



▲自治振興区対抗大縄飛び



▲福もちまき

『西城を元気に!みんな「わ」になろう!』をテーマに「第31回西城ふるさと祭」が西城球技場で開催され、約3,000人が来場しました。

2年ぶりの開催となるこの祭は、各自治振興区がテントを持ち寄り会場設営するなど、地元の祭を盛り上げようと、多くの協力の「わ」が集まりました。

会場では、町内の保育所や小学校のダンス演技や和太鼓・鼓笛演奏のほか、大縄跳びと玉入れで競う自治振興区対抗スポーツ大会やウルトラクイズなどが行われました。また、地元食材を使用した飲食店や自治振興区の試食コーナー、西城市民病院の健康チェックコーナーなども設けられました。

実行委員長の津守直樹さんは「今年は多くの来場者があり、西城に元気が取り戻せた」と喜んでいました。

「人と人のふれあいを深め、にぎわいのあるまちづくりの推進」を目的に、第29回ふれあい東城まつりが東城小学校グラウンドをメイン会場に開催され、約7,000人の来場者でにぎわいました。

中島ゆきこ、まなみのりさ、自治振興区などのステージショーをはじめ、自慢の歌声を披露する「ふれあいのど自慢」、保育園児による「竹太鼓」が行われました。また、「消防はしご車の搭乗体験」「健康広場」など誰でも参加できる催しも開催。

消防はしご車の搭乗体験をした東城保育所の笹尾友哉くんは「おばあちゃんの家や東城のいろいろなどころが見えて楽しかった」と話していました。

東城文化会館では、生け花や絵画などの展示、東城町老人福祉センターではフラダンスや舞踊などの活動団体が発表する「ふれあいの夕べ」も開催されました。



▲東城保育所竹太鼓



▲ちびっこ相撲

身近な歴史に見て触れて学習しよう 峰田小5・6年が地域の調べ学習

REPORT 4

峰田小学校の5・6年生が9月15日・29日の2日間、「地域の調べ学習」を行いました。

この授業は、庄原を舞台とした劇を作るための事前学習として行われたもので、小学校の周辺にある「鎌寄古墳」「千ヶ寺古墳群」「蘇羅比古神社」を巡りました。

講師として市役所生涯学習課の職員が同行し、古代の庄原が鉄の一大生産地だったと、道中で採取した鉄滓（鉄を作ったときの残りかす）を見せながら解説。児童たちは熱心に耳を傾けていました。

普段、教科書でしか学習することのない遺跡や遺物を見学した児童たちは「本物の古墳が意外と近くにあることにびっくりした」「蘇羅比古神社がそんなに古くからあ

るとは思わなかった」と驚いていました。



▲鎌寄古墳の説明を聴く児童たち

上野総合公園がきれいになりました 庄原ライオンズクラブ・庄原市シルバー人材センターが清掃奉仕

REPORT 5

上野総合公園で、市内2団体がボランティア清掃を実施しました。

10月12日、庄原ライオンズクラブ（会長：山本修三）は、会員22人で上野総合公園弁天島周辺を中心に草刈りを実施しました。ライオンズクラブは、毎年10月8日を「ライオンズデー」とする全国的な奉仕活動を実施しており、上野総合公園周辺での清掃奉仕は今年で4回目となります。

10月15日には、庄原市シルバー人材センター（理事長：伊藤昇）の本所会員90人が、10月第3土曜日を「シルバーの日」とする全国一斉の奉仕活動として、公園内でゴミ拾いなどの清掃ボランティアを実施しました。

公園を管理する市役所都市整備課の清水健治課長は

「行政による清掃管理だけでなく、皆さんの清掃奉仕によって公園がますますきれいになった。皆さん気持ちよく利用することができる。引き続きマナー良く利用してほしい」と話していました。



▲草刈り作業に汗を流す庄原ライオンズクラブの皆さん(右)
▲植栽をきれいにするシルバー人材センター会員の皆さん(左)

日々培われた「唄・踊」を堪能 けんみん文化祭ひろしま「民謡・民舞の祭典」

REPORT 6



▲西城えびね会

代々引き継がれてきた「唄」「踊」を県内の29団体が披露。各地域の予選を勝ち抜いたその技術は観客をうならせ、最優秀賞に輝いた団体の演技にはひととき大きな

けんみん文化祭ひろしま2011「民謡・民舞の祭典」が10月9日、庄原市民会館で行われました。

古くから人々の生活の営みの中で生まれ、

拍手が鳴り響いていました。

大会には西城町の2団体も出場し、地元として力強い演技を披露。また、敦盛さん保存会・比婆荒神神楽子ども神楽塾によるアトラクションも行われ、来場者は秋の芸術を丸一日堪能していました。



▲西城み幸会

子どもたち一人一人が輝く舞台 第12回庄原こどもミュージカル

REPORT 2



第12回庄原こどもミュージカル「しらゆき姫」の公演が10月16日、庄原市民会館で行われ、2回の公演で約1,100人が来場しました。

庄原・三次・広島市から集まった77人の子どもたちは、ミュージカルひろば主宰増田明さんの指導のもと、この日のために5月から練習を積み重ねてきました。

出演した子どもたちは、役柄ごとに色とりどりの衣装を身に付け、オリジナルストーリー「しらゆき姫」を身体全体で表現し、元気な歌声を会場に響かせていました。

庄原こどもミュージカル実行委員長の児玉節さんは「子どものころに豊富な経験をしてきた大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多い。子どもたちがすばらしい体験ができるミュージカルという機会をこれからも提供し続けていきたい」と話していました。



▲スライリーも駆けつけ一緒に出演



▲生き生きと演じる子どもたち

ひだまりの会の活動を応援 子どもの病気のことを知る学習会

REPORT 3



▲学習会後の交流会でアドバイスする西山さん

子どもの病気に対する知識や上手な受診の仕方を学ぶ学習会が10月6日、板橋ひだまり広場で開催されました。

庄原の小児医療を考えるひだまりの会が主催する今年2回目となるこの学習会は、元庄原赤十字病院勤務医師で、広島市の西山皮ふ科アレルギー科院長西山成寿さんが、昨年に続き同会の活動を応援したいと申し出た

ことから実現しました。

学習会には、小さな子を持つ23人の母親が参加。赤ちゃんの肌のお手入れ方法や病院にかかるときのポイントなどを、西山さんが事前のアンケートを基にわかりやすく説明。参加者はうなずきながら真剣に耳を傾けていました。

西山さんは「ひだまりの会の活動をさまざまなところで話す機会が増え、知っていただく知り合いも増えてきた。課題を考え話し合える場がもっと増えればいいと思う」と話していました。

同会代表の上村千幸さんは「先生からの申し出がとてもありがたい。このつながりを大切に今後も続けていければうれしい」と話していました。



▲真剣に耳を傾ける参加者

地域に咲く“お宝(いきがい)”発見

いきいき高齢者「花咲かじいさん・ばあさんの集い」

REPORT 10



▲会場の様子



▲自慢の一芸を発表

「いきいき高齢者 花咲かじいさんばあさんの集い」が9月23日、高野福祉保健センターで開催されました。これは、高野地域ケア会議が企画したもので、地域の高齢者や障害のある方が作成した手芸・絵画などの作品や演芸・特技を発表する場を設け、生きがいのある人生に「花」を咲かせてもらおうと実施したものです。当日は、6団体(20人)がそれぞれ銭太鼓やハーモニ

カなどの自慢の特技を発表。発表者からは「まだ何かできる気がしてきた」などの声が聞かれ、みんな充実した表情を浮かべていました。また、9月21日～23日までの3日間、同会場で自慢の作品・宝物約20点が展示されました。来場者は「私も元気が出てきた」と話すなど、驚きと感動のひと時を楽しく過ごしていました。

田総川の恵みを存分に味わう

田総川を丸ごと食べる会

REPORT 11



▲カヌー教室

総領町のなかつくに公園・田総の里スポーツ公園で9月17日、「田総川を丸ごと食べる会」が開催されました。これは、総領町や近隣地域の団体が集まりつくる「田総川を丸ごと食べる会実行委員会」が主催したもので、田総川や灰塚ダム周辺の資源を生かそうと実施されました。

当日はあいにくの小雨スタートでしたが、午前中、田総

川での遊び体験として、投網をうつ川漁体験、水生生物の観察をする川の楽校やカヌー教室などが行われ、子どもたちは歓声をあげながら水遊びをしていました。

「田総川を丸ごと食べる」をテーマに準備された「田総川ごはん」は、田総川産の鮎を使った鮎ご飯、灰塚ダムで捕れたブラックバスの燻製やブルーギルの南蛮漬、地元野菜や山菜を使ったメニューを1セットにして販売。予定されていた150食があっという間に完売になりました。訪れた約200人の参加者は田総川の恵みに舌鼓を打ちながら、初秋の一日を満喫していました。



▲田総川ごはんセットを準備するメンバー

みんなで楽しく親子交流

口和・総領合同子育てサミット開催

REPORT 7



▲親子で競技

子育て支援センターが主催する「口和総領子育てサミット」が9月8日、口和老人福祉センターで開催されました。子育てサミットは、子育て広場の一環として子育てに関わる人が集まってワイワイ楽しく交流する場で、毎月1回行われています。

今回は、総領の親子8組と口和の親子7組が参加しミニ運動会が行われ、宝さがし、ハイハイレース、障害物競

走などを親子で楽しみました。その後、ボランティアで参加している河野邦子さんが赤ちゃんにエプロンシアターで読み聞かせを行い、おやつタイムには、オレンジゼリーやキャベツのクラッカーをみんなでおいしく食べました。

コーディネーター役で子育て支援センターの松永園さんは「今後は高野、比和の皆さんと子育てサミットを通じて交流を深めたい」と話していました。



▲みんなでおやつタイム

創意工夫のネギレシピが集合

「ヒバゴンネギが主役のレシピ」コンクール審査会開催

REPORT 8

西城町の特産品「ヒバゴンネギ」を主役としたレシピコンクールの審査会が9月12日、西城保健福祉総合センターしあわせ館で開催されました。

このコンクールは、生産者や料理研究グループなど西城の農と食の関係者が実行委員会を組織し、ヒバゴンネギの高付加価値化と利用拡大、生産者支援として取り組んだもので、町内から25の応募作品が集まりました。

審査は、ネギ特有の辛さと香りの強さなどヒバゴンネギの特長を生かしていることや、おいしさ、作りやすさなど5項目で評価。町内の飲食店経営者や管理栄養士、ヒバゴンネギ生産者など13人が審査にあたりました。

優秀賞には、ご飯の上に刻んで油通したヒバゴンネ

ギとだし汁をかけ、中心に温泉卵をのせた「ヒバゴンネギ丼」が選ばれました。



▲優秀賞に選ばれた「ヒバゴンネギ丼」



▲真剣に採点する審査員

本に触って、めくって、読んで、楽しむ

全国訪問おはなし隊キャラバンカーが比和町へ

REPORT 9



▲キャラバン隊長の絵本の読み聞かせ

本棚には面白そうな本がズラリと並び、集まった保育所の園児24人、比和小学校の1・2年生19人は、いつもと

全国読み聞かせキャラバン「おはなし隊」が9月14日、児童書約500冊を乗せたキャラバンカーと共に比和保育所へやってきました。

キャラバンカーの中に設置された

は違う図書館に大喜び。自由に本を選んで外に敷かれたござの上で青空読書を楽しみました。

保育所内では、キャラバン隊長の谷路子さんと地元の読み聞かせボランティアの皆さんによる、絵本の読み聞かせ・大型紙芝居が行われ、ゆっくりページをめくりながら優しい声で読み上げられるおはなしに、子どもたちは夢中になっていました。



▲本が並ぶキャラバンカー